

木造パネル割付図編

木造パネル割付図は、平面図、木造構造図のデータを元に木造パネル割付図で壁パネル・矢切パネルを自動配置して、床パネル・天井パネルを手入力していきます。

【解説用データ】：木造パネル割付図編（解説用）.fcbz

※ この解説用データには、木造構造図までのデータが入力されています。

1 データの確認	2	6 [2階] 壁パネルの自動配置	14
本書のパネル工法について	2	2階壁パネルを自動配置する	14
使用する物件マスタについて	2	壁パネルを入力する	15
物件初期設定を変更する	3	壁パネルの属性を変更する	15
平面図と屋根伏図を作成する	4	7 [2階] 天井パネルの入力	16
構造図を作成する	4	天井パネルを入力する	16
2 パネルマスタの登録	6	8 [R階] 天井パネルの入力	16
壁パネルマスタを開く	6	小屋伏図の部材を読み込む	16
壁パネルを登録する	6	範囲を指定して天井パネルを入力する	17
床パネルを登録する	8	残りの天井パネルを入力する	17
天井パネルを登録する	9	9 パネルリストの作成	18
3 初期設定の確認・変更	10	各階のパネルリストを作成する	18
1階パネル割付図を開く	10	全階の特注パネルリストを作成する	18
専用初期設定を確認する	10	[補足] 壁パネルに筋かいを設ける場合	19
4 [1階] 壁パネルの自動配置	11	[補足] 横架材間に床パネルを落とし込む場合	20
壁パネルを自動配置する	11	[補足] 屋根断熱の場合	21
パースを確認する	11		
壁パネルの属性を変更する	12		
5 [1階] 床パネルの入力	13		
床パネルを入力する	13		
範囲を指定して床パネルを入力する	13		
残りの床パネルを入力する	14		

1

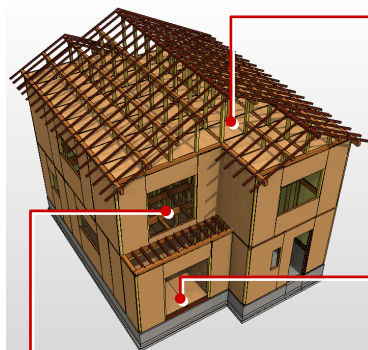
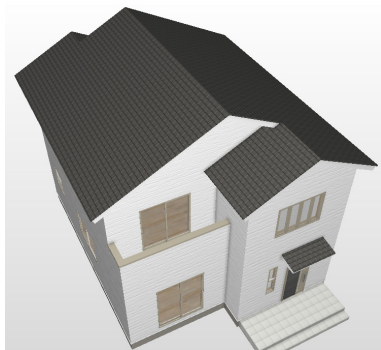
データの確認

本書のパネル工法について

本書では、次のようなパネル工法の割付図を作成します。

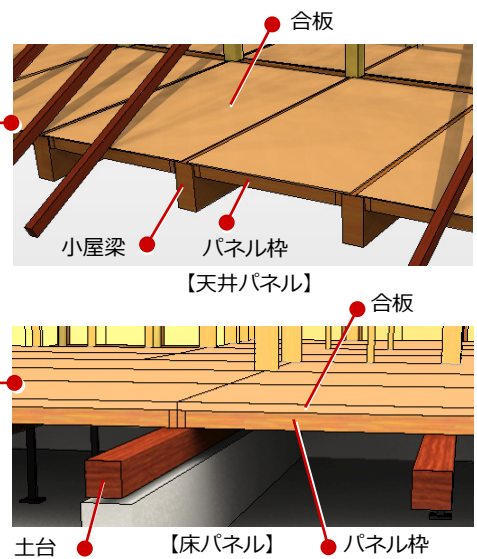
項目	概要
工法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階床はパネル工法 ・ 2 階床は根太レス工法（構造用合板）
断熱方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根パネルと矢切パネルではなく、床パネルと天井パネルで断熱する
壁パネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さ 2710 mm の既成パネルを使用する（パネルマスタ） ・ 2 階の梁、小屋伏図の軒桁のせいを 240 mm で統一した構造とする
床パネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既成パネルを使用する（パネルマスタ） ・ 土台・大引の天端に床パネルを置く
天井パネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既成パネルを使用する（パネルマスタ） ・ 小屋梁間に天井パネルを落とし込む

※ ZERO では、屋根パネルには対応していません。



● 2 階床は構造用合板（根太レス工法）

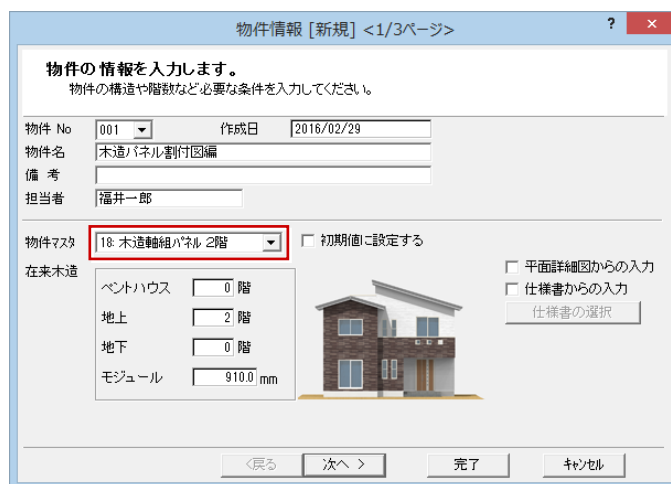
横架材間に床パネルを落とし込む
 右のように横架材間に床パネルを落とし込む場合は、P.20 を参照してください。



使用する物件マスタについて

新規物件を作成するとき、物件マスタは「木造軸組パネル用」を選びます。

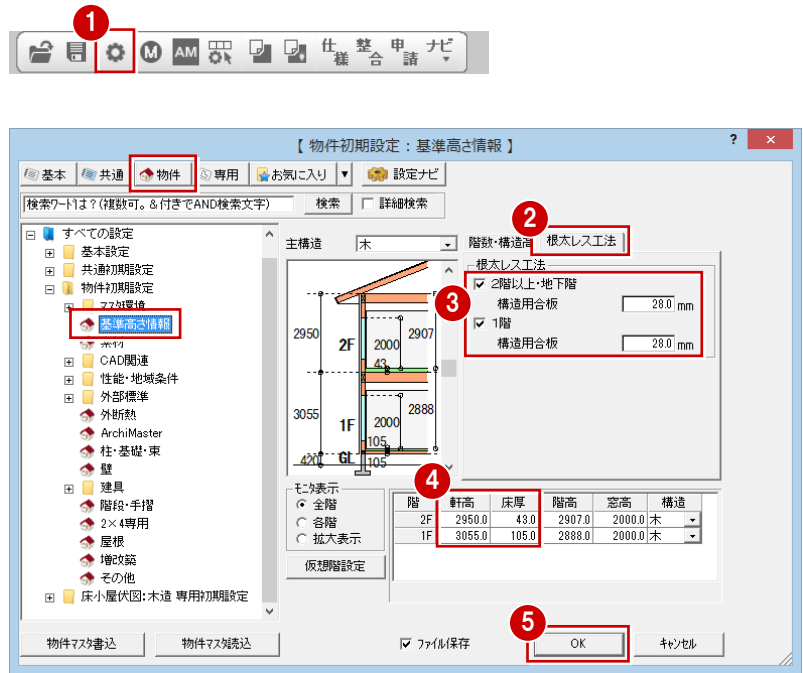
※「木造用」を選んでも作成できますが、「木造軸組パネル用」を使用すると、初期設定がパネル用に設定されています。



物件初期設定を変更する

1階床パネルも根太レス工法のため、1階と2階とも根太レス工法とし、横架材のせい、パネルの高さや厚さを考慮して軒高・床厚を変更します。

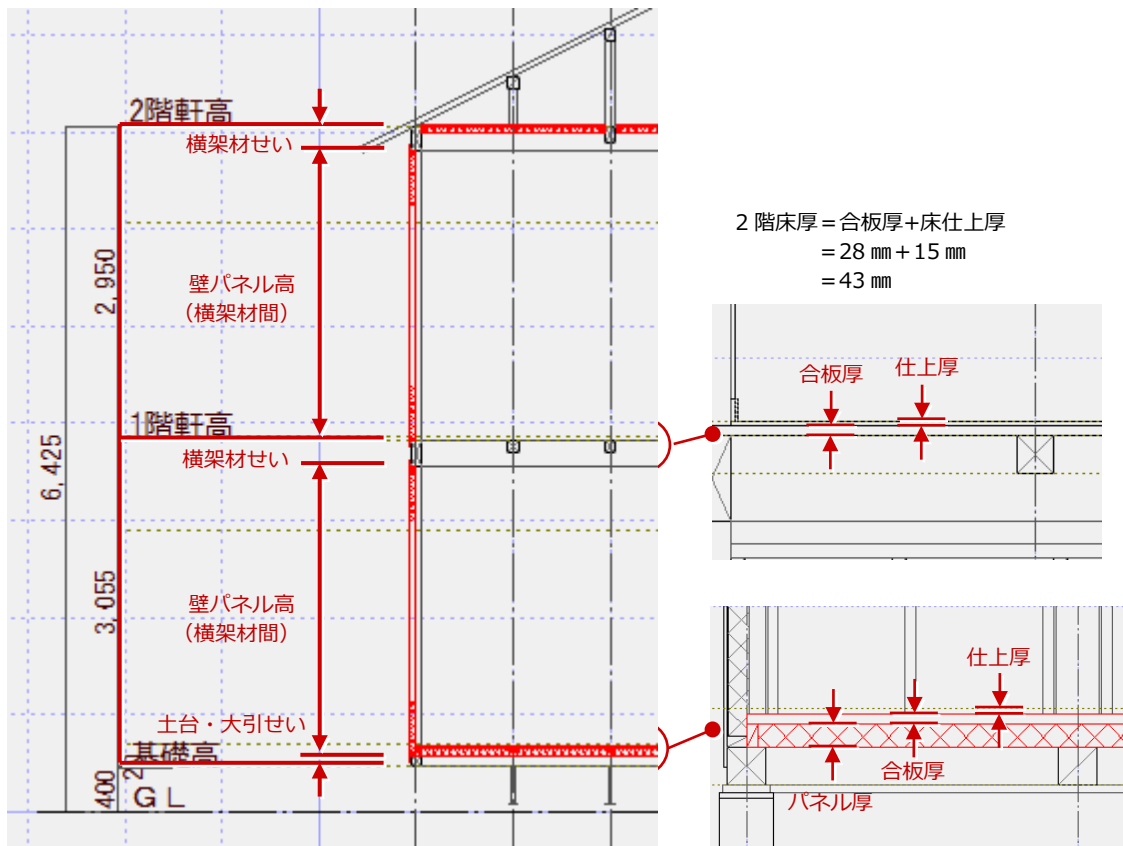
- ① [設定] をクリックして、[物件初期設定 (基準高さ情報)] ダイアログを開きます。
- ② [根太レス工法] タブをクリックします。
- ③ [2階以上・地下階] [1階] をONにして、構造用合板の厚さが「28.0」であることを確認します。
- ④ 次のように軒高、床厚を変更します。
2階 軒高：2950 mm、床厚：43.0 mm
1階 軒高：3055 mm、床厚：105.0 mm
- ⑤ [OK] をクリックします。



建物の軒高・床厚について

この物件では、各階の横架材のせいを統一し、マスタに登録されている壁パネルの高さを基準にパネルを割り付けるため、横架材のせいと壁パネルの高さをもとに、この物件の軒高を算出します。また、1階床厚もパネルと構造用合板の厚さから算出します。

$$\begin{aligned} \text{2階軒高} &= \text{横架材せい} + \text{壁パネル高} \\ &= 240 \text{ mm} + 2710 \text{ mm} \\ &= 2950 \text{ mm} \end{aligned}$$

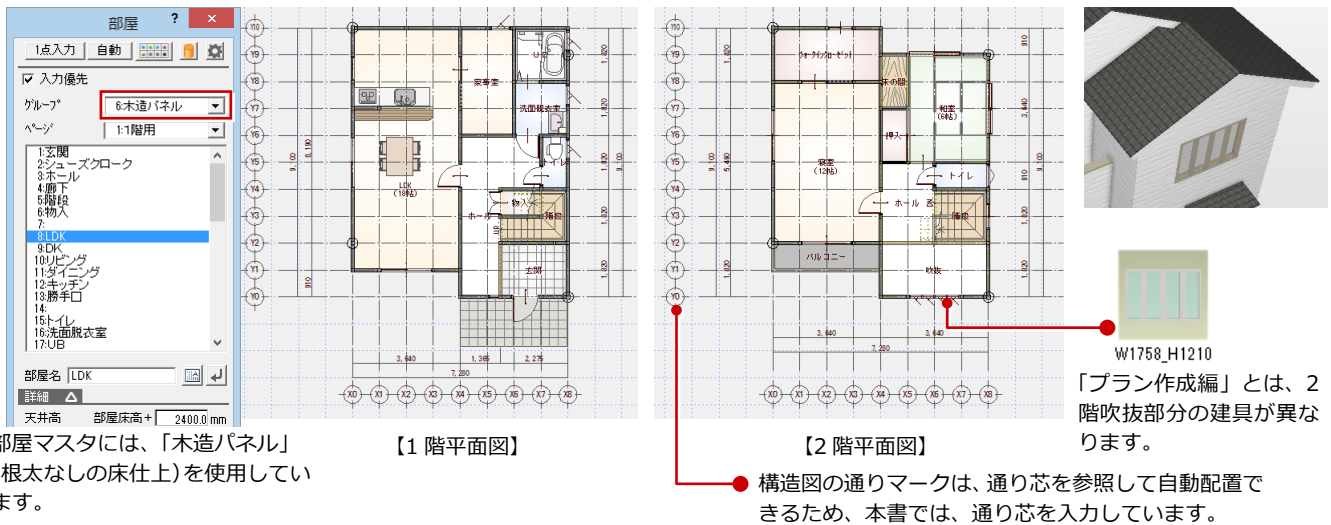


$$\begin{aligned} \text{1階軒高} &= \text{2階横架材せい} + \text{壁パネル高} + \text{土台・大引せい} \\ &= 240 \text{ mm} + 2710 \text{ mm} + 105 \text{ mm} \\ &= 3055 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{1階床厚} &= \text{パネル厚} + \text{合板厚} + \text{床仕上厚} \\ &= 62 \text{ mm} + 28 \text{ mm} + 15 \text{ mm} \\ &= 105 \text{ mm} \end{aligned}$$

平面図と屋根伏図を作成する

平面図の間取り、屋根伏図の形状は、「プラン作成編」とほぼ同じです。これらの作成については、「プラン作成編」を参照してください。

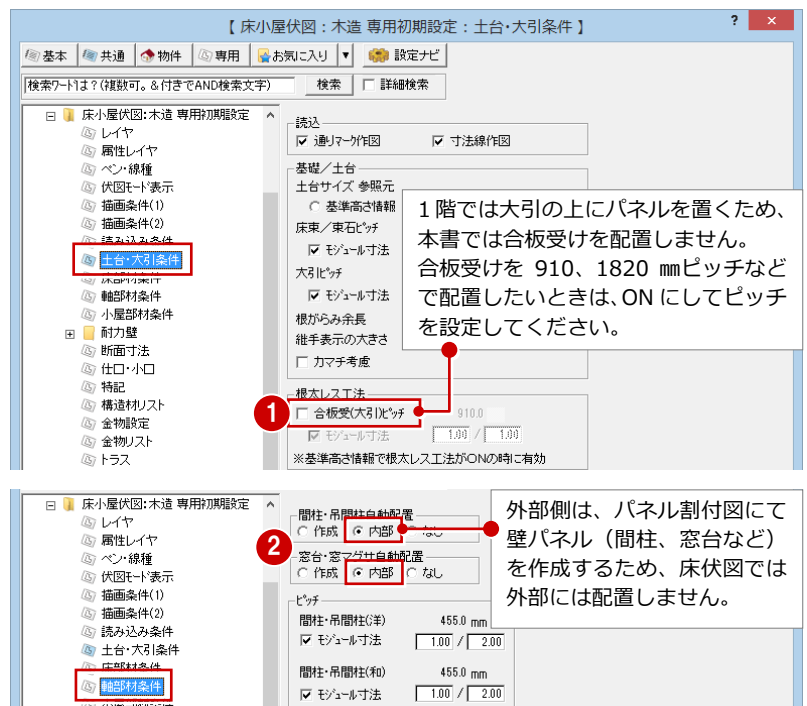


構造図を作成する

床小屋伏図、基礎伏図は「木造構造図編」とほぼ同じです。これらの作成については、「木造構造図編」を参照してください。
ここでは、専用初期設定、部材の配置などパネル工法用に変更が必要な箇所だけを解説します。

- 専用初期設定を確認する -

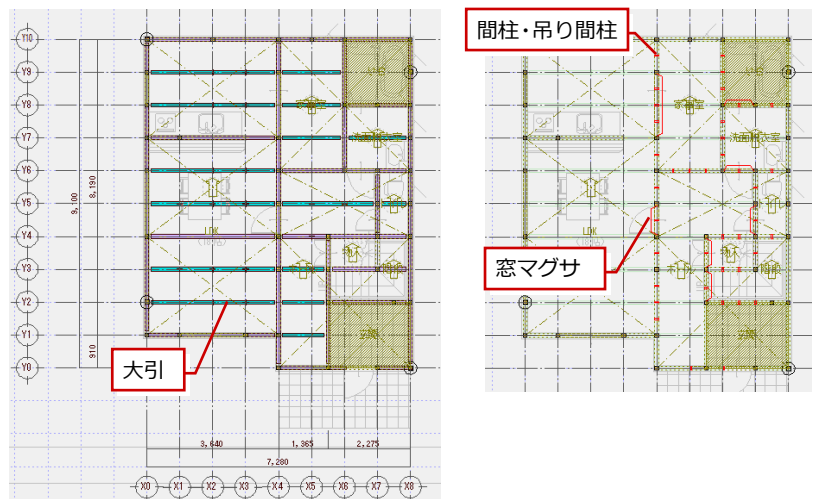
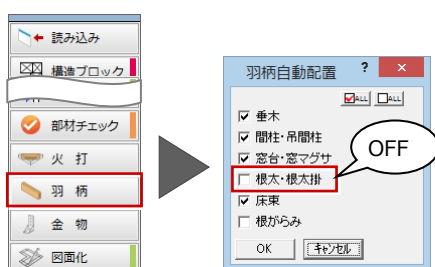
- 1 [専用初期設定 (土台・大引条件)] を開き、1階床伏図では [合板受 (大引) ピッチ] をOFFにします。
- 2 [専用初期設定 (軸部材条件)] の「間柱・吊間柱自動配置」の [内部]、「窓台・窓マグサ自動配置」の [内部] がONであることを確認します。



- 1階床伏図を作成する -

伏図アシスタントを使用して、部材を配置します。

※ 根太レス工法のため、[羽柄] の [根太・根太掛] はOFF (初期値) のまま自動配置します。

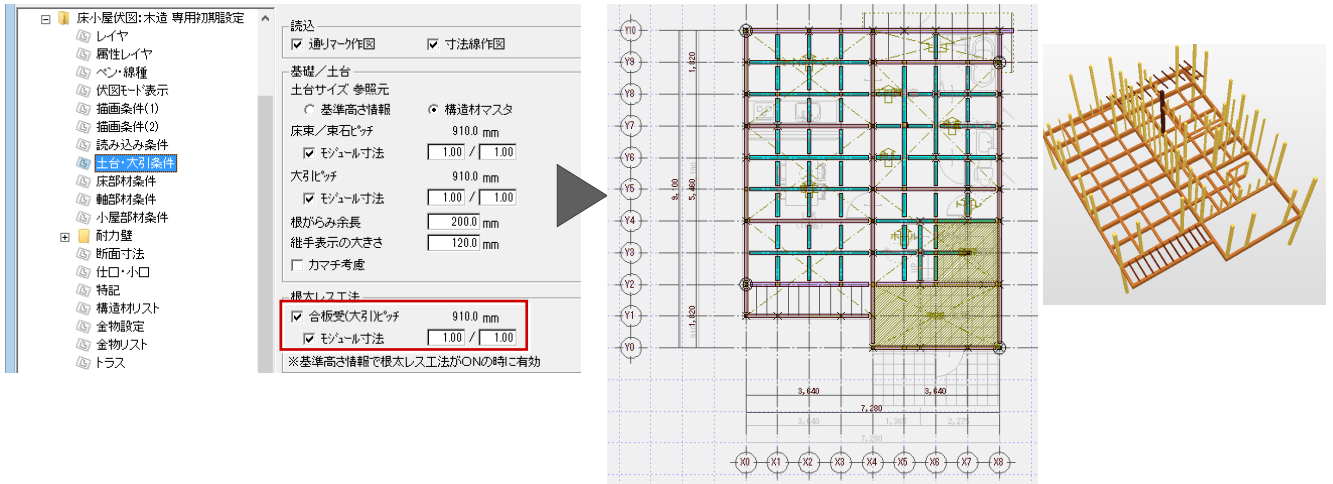


※ 本書では、縮尺 1/100 の画面で解説しています。

－ 2階床伏図を作成する －

2階床伏図は構造用合板の根太レス工法のため、[専用初期設定 (土台・大引条件)] の [合板受 (大引) ピッチ] をON、[モジュール寸法] を「1/1」に変更して、床梁を自動配置します。

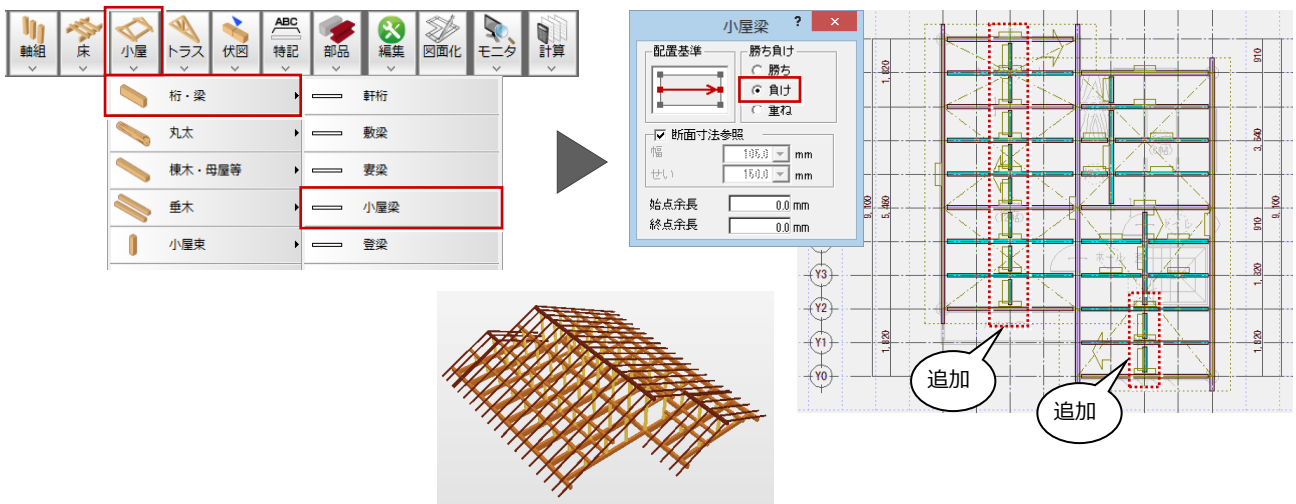
また、本書では外周部に位置する胴差、梁 (床)、妻梁のせいを「240 mm」として、他の横架材のせいを調整しています。



－ 小屋伏図を作成する －

パネル割付図にて910×1820 mmの天井パネルを配置するため、小屋梁のスパンが1820 mmとなるように小屋梁を追加します。[専用初期設定 (小屋部材条件)] の [小屋梁/丸太] を「1/1」に変更して、小屋梁を自動配置します。次に「小屋」メニューの「桁・梁」の「小屋梁」を選び、小屋梁を手入力します。

また、本書では外周部に位置する軒桁、妻梁のせいを「240 mm」として、他の横架材のせいを調整しています。



2 パネルマスタの登録

既成パネルを使用する場合は、各パネルマスタにてパネルを登録しておきます。

壁パネルマスタを開く

- 1 [処理選択] ダイアログの [構造] タブをクリックして、[木造構造図] をクリックします。
- 2 [木造壁パネルマスタ] をダブルクリックします。



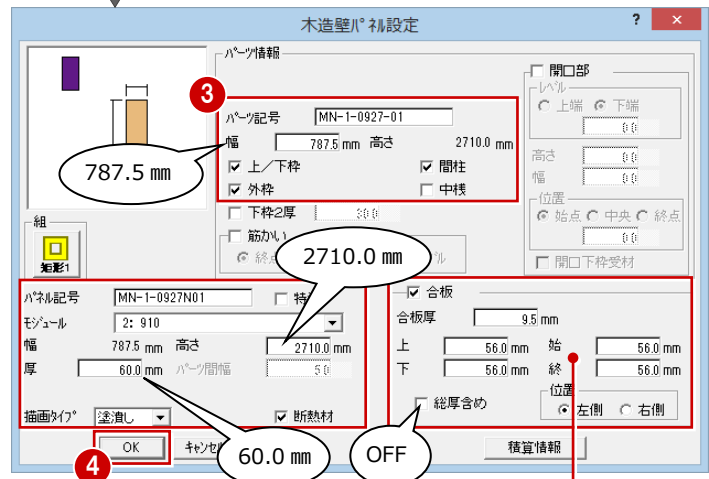
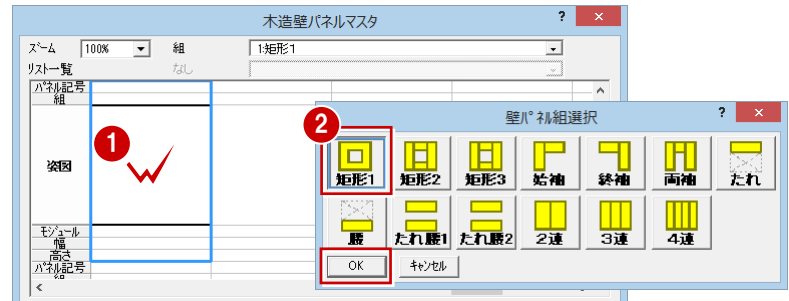
別の開き方

パネル割付図を開いているときは、「ウィンドウ」メニューの「木造壁パネルマスタ」でも開くことができます。

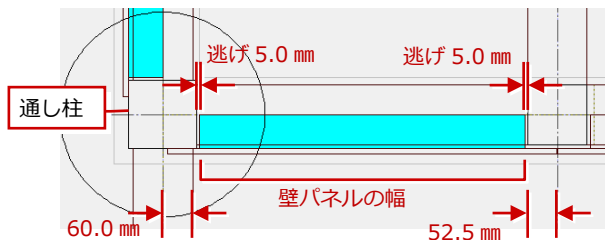
壁パネルを登録する

通し柱と管柱間（間隔 910 mm と 1820 mm）に割り付ける壁パネルを登録します。

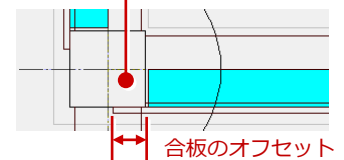
- 1 未登録欄をダブルクリックします。
- 2 [壁パネル組選択] ダイアログで [矩形] を ON にして、[OK] をクリックします。
- 3 [木造壁パネル設定] ダイアログで、パネルの幅、高さ、パネル記号などを設定します。
- 4 [OK] をクリックします。



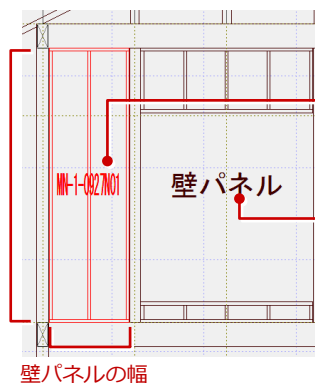
※ 逃げは、[専用初期設定 (自動立上条件)] で設定します (初期値は 5.0 mm)。現場での収まりを考えて逃げを設定します。



$$\begin{aligned} \text{壁パネルの幅} &= \text{グリッド間} - \text{通し柱サイズ} / 2 - \text{管柱サイズ} / 2 - \text{逃げ} \times 2 \\ &= 910 \text{ mm} - 60 \text{ mm} - 52.5 \text{ mm} - 5.0 \text{ mm} \times 2 \\ &= 787.5 \text{ mm} \end{aligned}$$



壁パネルの高さ

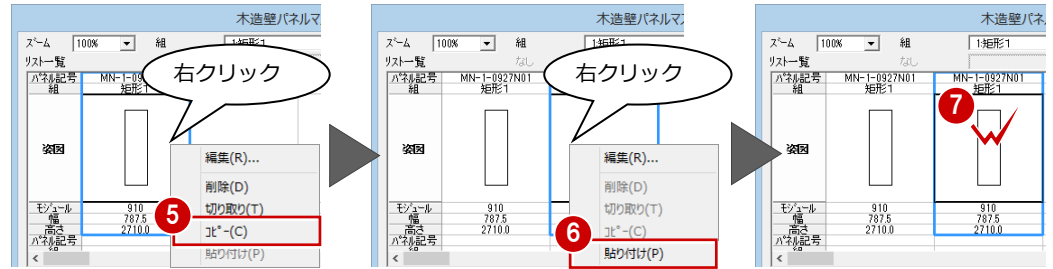


● 柱面～柱面と逃げを考慮した幅（上図を参照）、横架材間の高さ（軒高と横架材のせいから計算）が、登録したパネルの幅・高さとは一致する箇所に、このパネルが自動配置されます（パネル記号が表示される）。

● マスタに形状が一致するパネルがないときは、任意のパネルが配置されます（パネル記号が表示されない）。

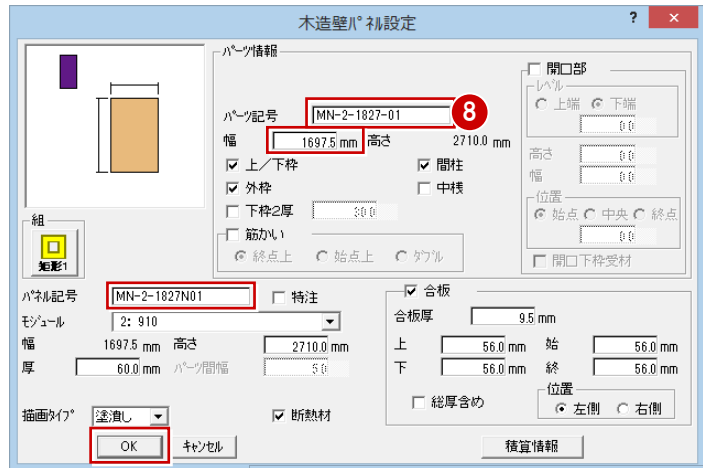
- 5 6 一覧で右クリックして、登録した壁パネルをコピーして、隣の未登録欄に貼り付けます。

- 7 貼り付けた壁パネルをダブルクリックします。



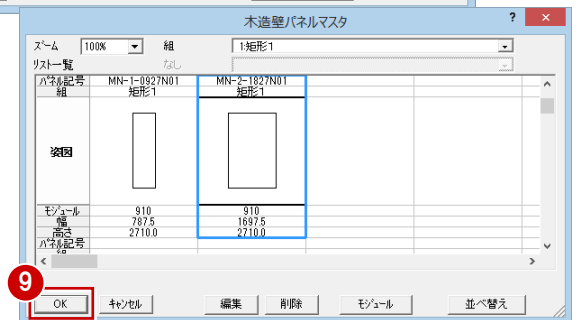
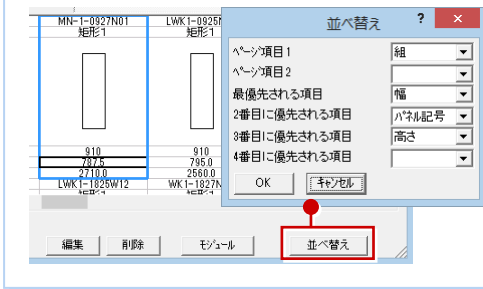
- 8 パーツ記号、幅を変更して、[OK] をクリックします。

- 9 [木造壁パネルマスタ] ダイアログの [OK] をクリックします。



マスタの表示順について

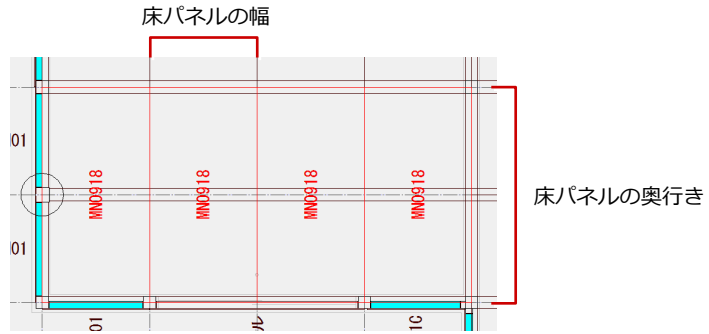
[木造壁パネルマスタ] ダイアログの [OK] をクリックすると、[並び替え] で設定されている優先順位によって並び替えられます。



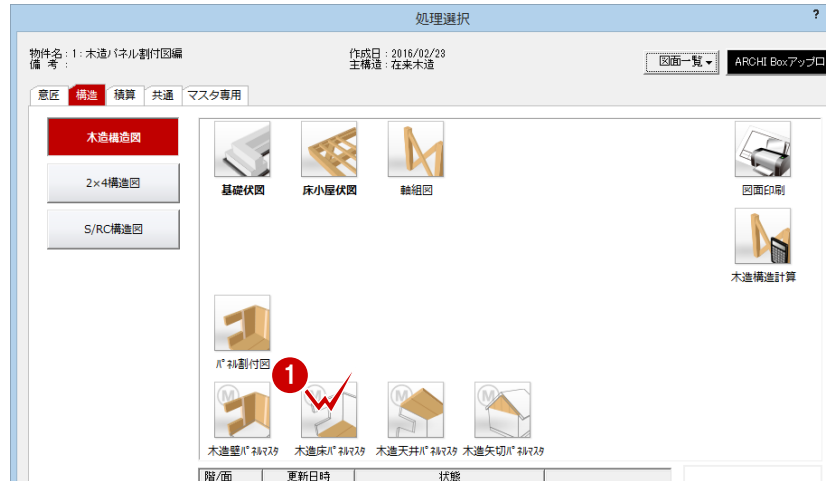
床パネルを登録する

本書では、大引の上に床パネルを隙間なく置くため、合板のオフセットが0 mmの床パネル(910×1820、1365×1820)を登録します。

※ 出荷時のマスタには、大引の上に置くタイプの床パネルが登録されていません。



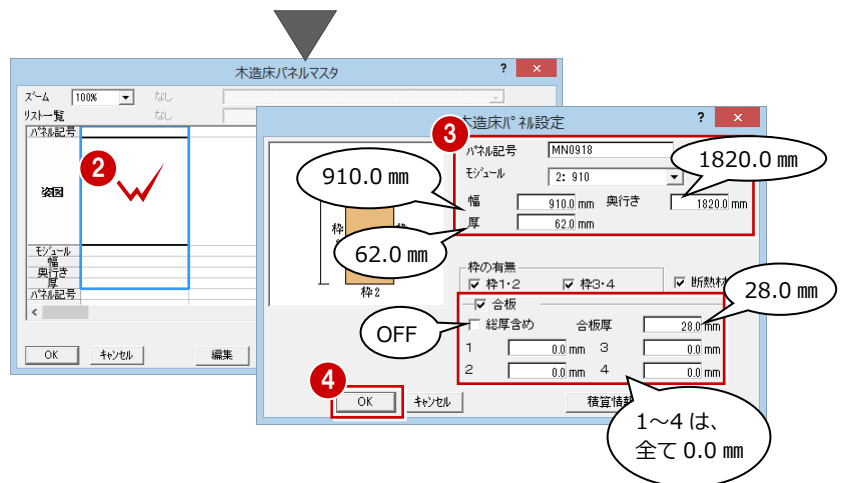
① [処理選択] ダイアログの [木造床パネルマスタ] をダブルクリックします。



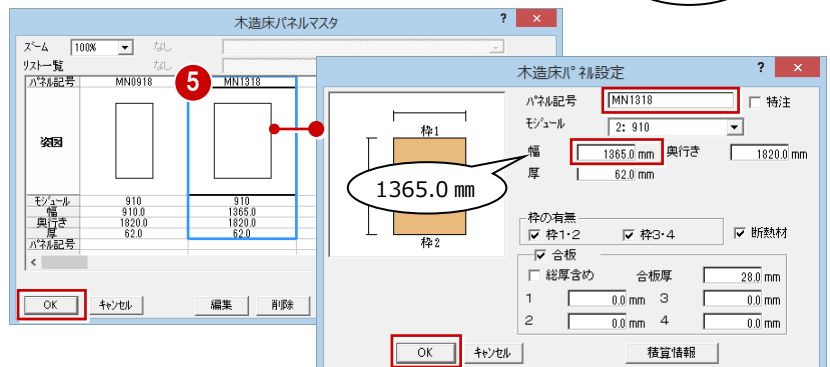
② 未登録欄をダブルクリックします。

③ 床パネルの幅、奥行き、厚さ、合板などを設定します。

④ [OK] をクリックします。



⑤ 登録した床パネルをコピーして、1365×1820の床パネルを登録します。

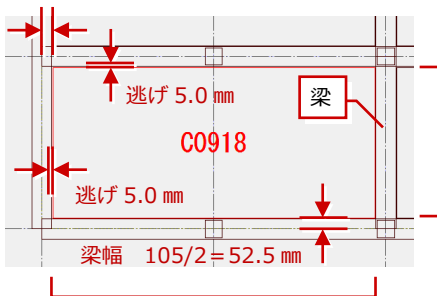


天井パネルを登録する

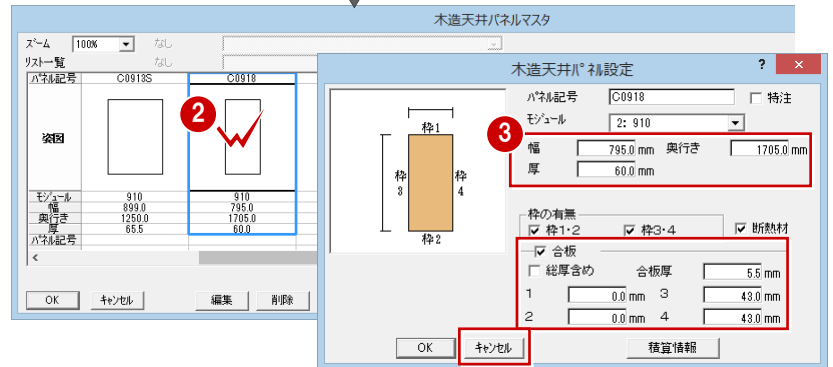
本書では、小屋梁間に天井パネルを落とし込みます。出荷時のマスタには、このタイプの天井パネルが登録されているため、サイズを確認します。

- ① [処理選択] ダイアログの [木造天井パネルマスタ] をダブルクリックします。
- ② 「C0918」 をダブルクリックします。
- ③ 天井パネルの幅、奥行き、厚さ、合板などを確認します。

梁幅 $105/2 = 52.5$ mm

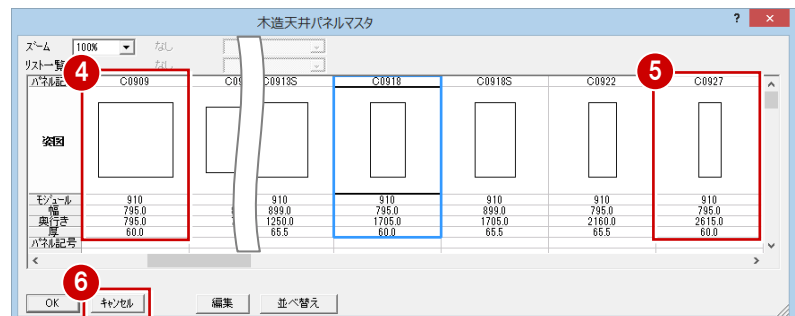


天井パネルの奥行き = グリッド間 - 梁幅/2 - 梁幅/2 - 逃げ × 2
 $= 1820 \text{ mm} - 52.5 \text{ mm} - 52.5 \text{ mm} - 5.0 \text{ mm} \times 2$
 $= 1705.0 \text{ mm}$

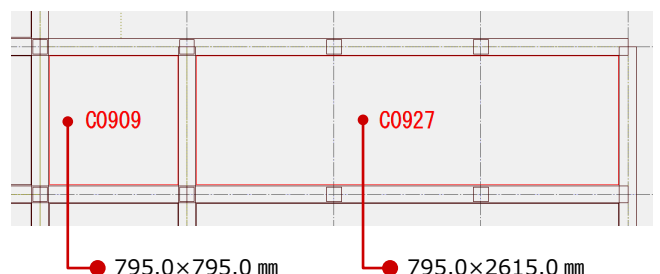


幅 = グリッド間 - 梁幅/2 - 梁幅/2 - 逃げ × 2
 $= 910 \text{ mm} - 52.5 \text{ mm} - 52.5 \text{ mm} - 5.0 \text{ mm} \times 2$
 $= 795.0 \text{ mm}$

- ④⑤ 同様に、「C0909」「C0927」の幅、奥行きなどを確認します。
- ⑥ ここでは確認のためのため、[キャンセル] をクリックします。



※ 「C0909」「C0927」は、910 mm、2730 mmの梁スパン間に使用します。



3 初期設定の確認・変更

各パネルマスタにて使用する既成パネルを登録したら、パネル割付図で壁パネルの高さについて設定し、壁パネルを自動で割り付けます。その後、床パネル、天井パネルは個別に入力していきます。

1 階パネル割付図を開く

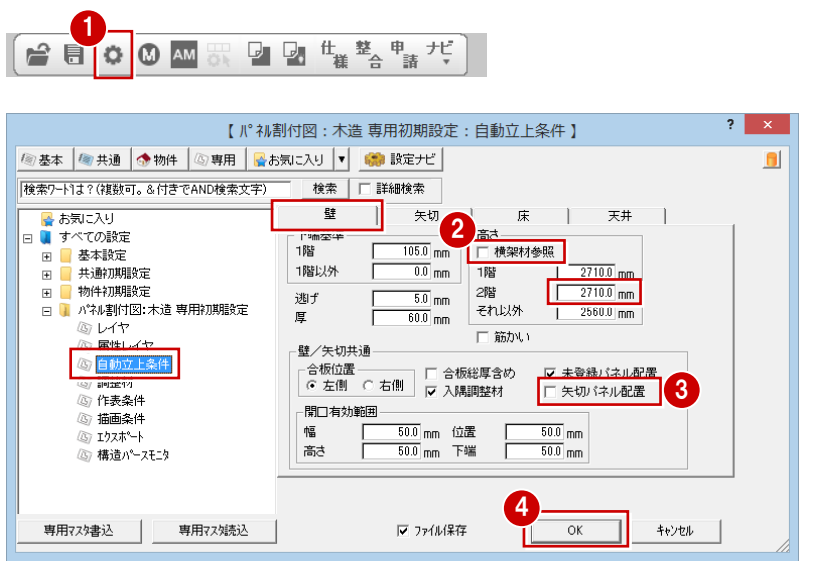
- 1 [処理選択] ダイアログの [構造] タブをクリックして、[木造構造図] をクリックします。
- 2 [パネル割付図] をダブルクリックします。
- 3 [図面選択] ダイアログの「1 階」をダブルクリックします。



専用初期設定を確認する

本書では、高さ 2710 mm の壁パネルを使用し、横架材がせい 240 mm で統一された構造のため (⇒ P.3、4)、次のように設定します。

- 1 [設定] をクリックして、[専用初期設定 (自動立上条件)] ダイアログを開きます。
- 2 [壁] タブの [横架材参照] が OFF であることを確認して、[2 階] を「2710」に変更します。
- 3 本書では天井パネルで断熱するため、[矢切パネル配置] を OFF にします。
- 4 [OK] をクリックします。



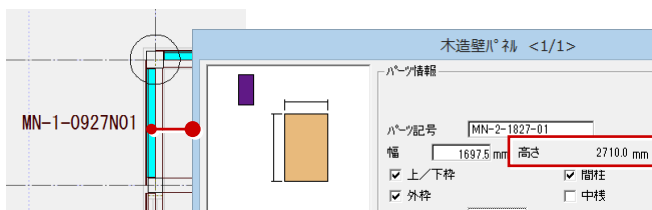
壁パネルの高さ

自動配置される壁パネルの高さは、[横架材参照] の設定、[1 階] ~ [それ以外] の高さが影響します。

目的	横架材参照
横架材のせいを統一し、既成のパネルを使用するとき	[横架材参照] を OFF にして、[1 階] [2 階] には各階の横架材間距離を設定します (⇒ P.3)。壁パネルは、[1 階] [2 階] で設定している高さで自動配置されます。
横架材のせいが統一されておらず、既成のパネルの使用が少ないとき	[横架材参照] を ON にして、[1 階] [2 階] には最大の横架材間距離を設定します (※)。梁せいを参照して壁パネルの高さが自動設定されます。この場合、横架材のせい (横架材間の距離) を想定した既成の壁パネルは使用できないため、特注パネルとして扱うことになります。

※ [横架材参照] が ON のとき、横架材間の距離が [1 階] [2 階] の高さを超える場合、[1 階] [2 階] で設定された高さの壁パネルが配置されるため、横架材と壁パネルに隙間が生じてしまいます。

(例)
 壁パネルの高さ = 軒高 - 横架材せい - 土台・大引せい
 = 3000.0 mm - 240.0 mm - 105.0 mm
 = 2655.0 mm



【横架材参照：OFF、高さ：2710 mmの場合】



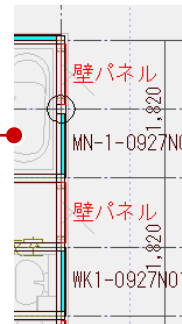
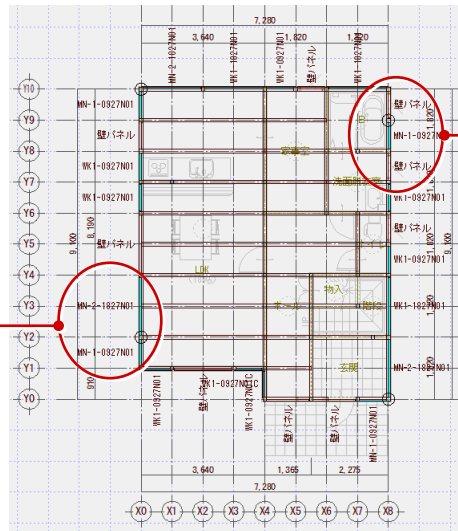
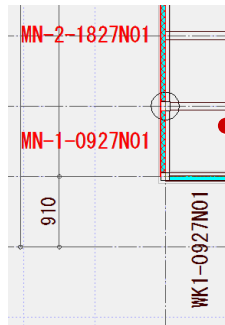
【横架材参照：ON、高さ：2710 mmの場合】

4 [1階] 壁パネルの自動配置

壁パネルを自動配置する

[自動] をクリックして、床伏図の土台、大引、柱、通し柱、軒桁、小屋梁、妻梁、小屋束を読み込んで、壁パネル、入隅・出隅部分に調整材を自動配置します。

マスタに登録した壁パネルが割り付いたことを確認します。



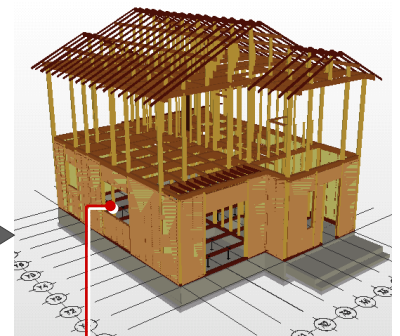
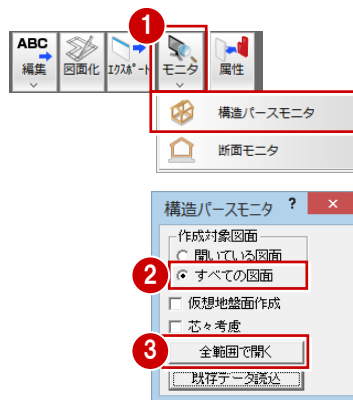
開口部の壁パネルなど、パネルマスタにないものは、パネル記号でなく「壁パネル」と表示されます。

また、開口部のようにマスタ化が難しいパネルは、特注パネルとします (⇒ P.12)。

※ 本書では、縮尺 1/100 の画面で解説しています。

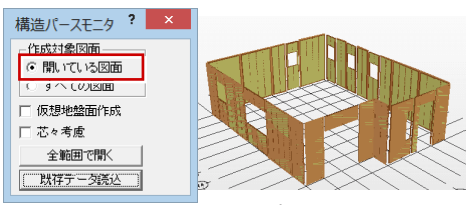
パースを確認する

- 1 [モニタ] メニューから [構造パースモニタ] を選びます。
- 2 [すべての図面] を ON にします。
- 3 [全範囲で開く] をクリックします。
床小屋伏図とパネル割付図の立体データを作成します。

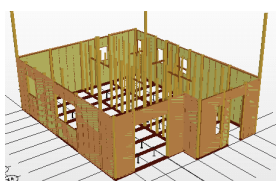


開いている図面の場合

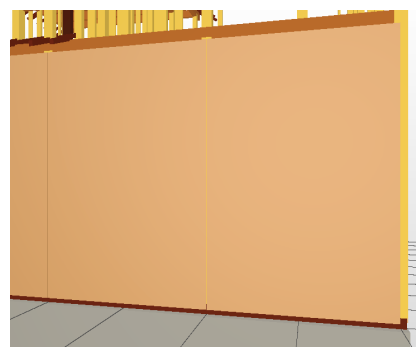
現在開いている 1 階パネル割付図だけが対象となるため、壁パネルと調整材だけの立体データとなります。1 階床伏図を開いたときは、柱や梁などの構造材の立体データも作成されます。



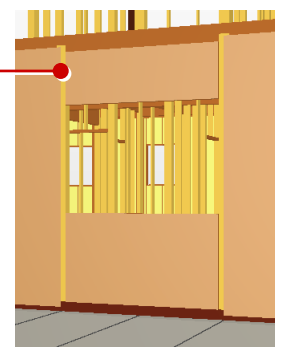
【1階パネル割付図のみ】



【1階パネル割付図・床伏図のみ】



【マスタからの割り当てがある壁パネル】



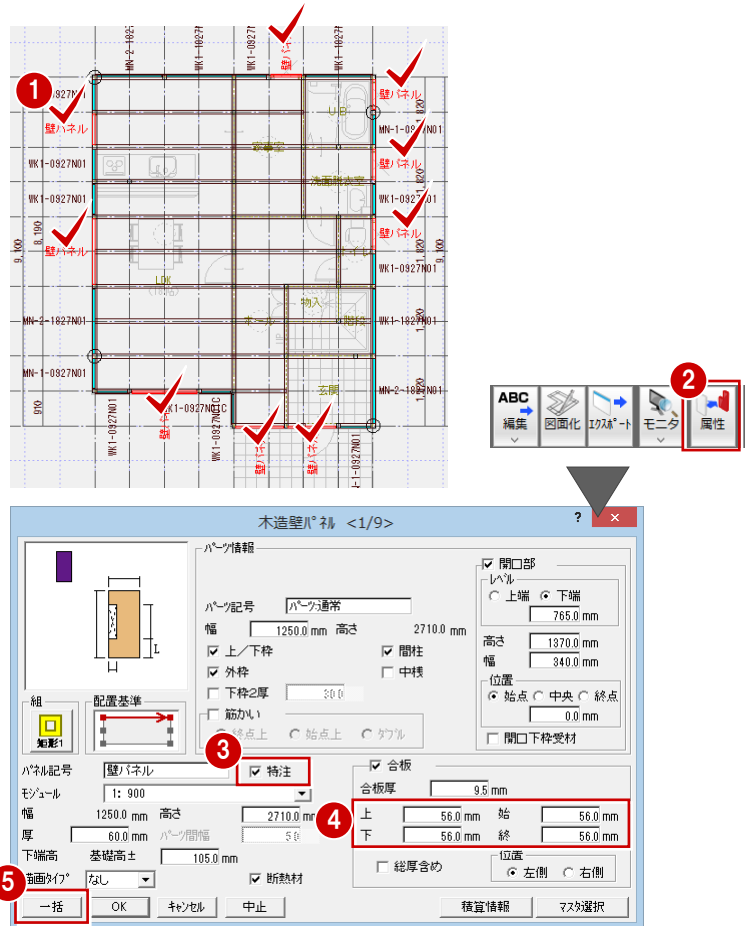
【開口部の壁パネル】

※ パネルマスタからの割り当てがない開口部のような壁パネルは、合板のオフセットが 0 mm になっているため、壁パネル間に隙間が生じます (⇒ P.12)。

壁パネルの属性を変更する

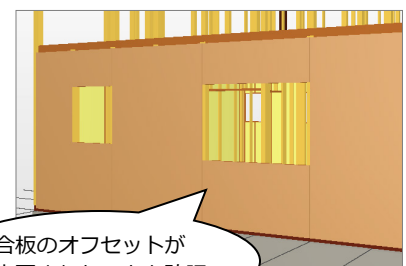
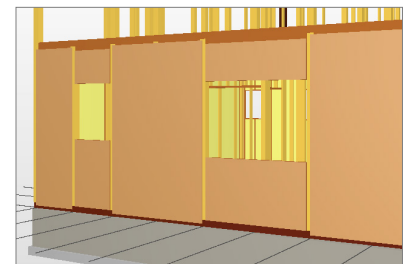
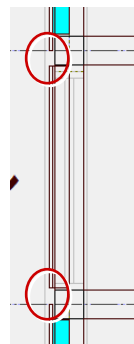
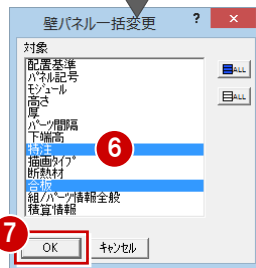
ここでは、開口部の壁パネルに合板のオフセットを設定し、パネルマスタにない壁パネルであるため特注パネルとします。

- ① Ctrl キーを押しながら「壁パネル」をクリックします。
- ② [属性変更] をクリックします。
- ③ [特注] を ON にします。
- ④ [合板] にある [上] [下] [始] [終] を「56.0」に変更します。
- ⑤ [一括] をクリックします。
- ⑥ [壁パネル一括変更] ダイアログで「特注」と「合板」だけが ON になっていることを確認します。
- ⑦ [OK] をクリックします。



特注パネル

[特注]がONのパネルは、[作表]メニューの[特注パネル仕様リスト]で表に出力できます。
※ CSV ファイルに出力することも可能



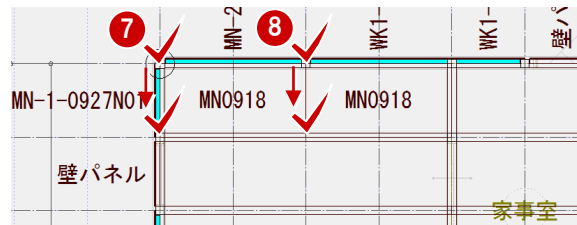
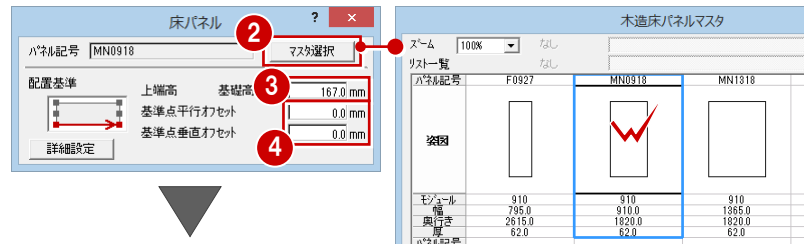
5 [1階] 床パネルの入力

床パネルを入力する

- ① [パネル] メニューから [床パネル] の [床パネル] を選びます。
- ② [マスタ選択] をクリックして、マスタに登録した「MN0918」をダブルクリックします。
- ③ [上端高] を「167」に変更します。
※ 土台 105 mm + パネル厚 62 mm = 167 mm
- ④ ここでは、床パネルを隙間なく配置するため、[基準点平行オフセット] [基準点垂直オフセット] を「0.0」に変更します。
- ⑤ 入力方法を「1点方向」に変更します。
- ⑥ [グリッド] のみを ON にします。
- ⑦ 配置基準点と方向を指定します。
- ⑧ 同様に、隣にも床パネルを入力します。

上端高の初期値を変更するには

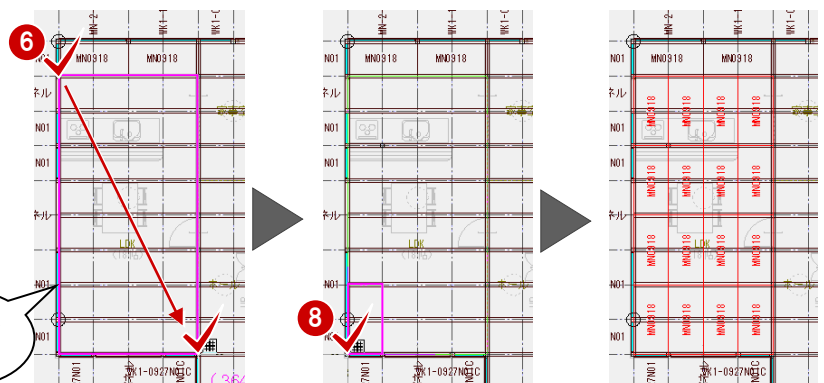
[専用初期設定 (自動立上条件)] の [床] タブにある [下端基準] で階ごとに変更します。



範囲を指定して床パネルを入力する

指定した範囲に同一方向に床パネルをまとめて入力します。

- ① [パネル] メニューから [床パネル] の [床パネル (範囲)] を選びます。
- ② ダイアログの [マスタ選択] をクリックして、「MN0918」を選びます。
- ③ [上端高] を「167」に変更します。
- ④ [基準点平行オフセット] ~ [パネル上下間隔] を全て「0.0」に変更します。
- ⑤ 入力方法を「矩形」に変更します。
- ⑥ パネルを入力する範囲を指定します。
- ⑦ 入力方法を「1点」に変更します。
- ⑧ パネルの方向を確認して、配置基準点をクリックします。
指定した範囲にパネルがまとめて配置されます。

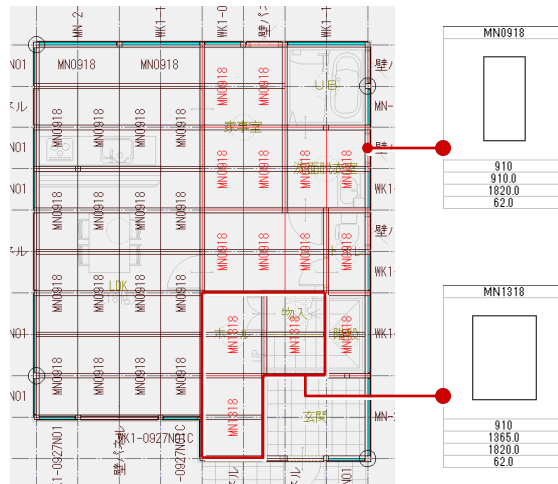


グリッドを指定

残りの床パネルを入力する

UB、玄関を除いて、右図のように床パネルを入力します。

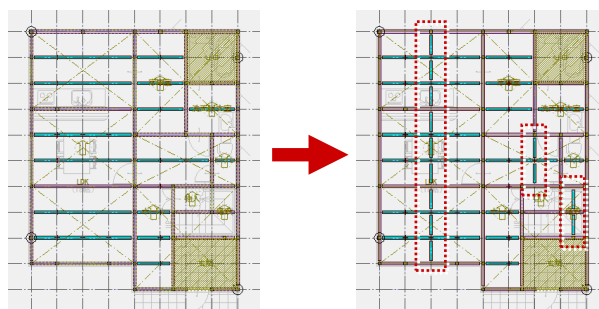
- ・「MN0918」（幅 910×奥行 1820 mm）
- ・「MN1318」（幅 1365×奥行 1820 mm）



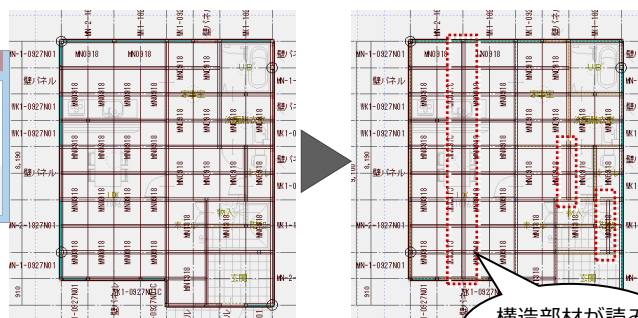
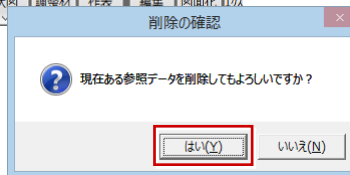
パネルの入力後に構造図を変更した場合

パネルの入力後に「自動」を実行すると、入力したパネルはすべて削除されてしまいます。

構造図を変更した場合は、「読込」をクリックして平面図の部屋や建具、木造構造図の構造部材を読み込みなおします。入力したパネルは削除されないため、読み込み直した部材もとにパネルを入力しなおすなど編集してください。



【床小屋伏図】

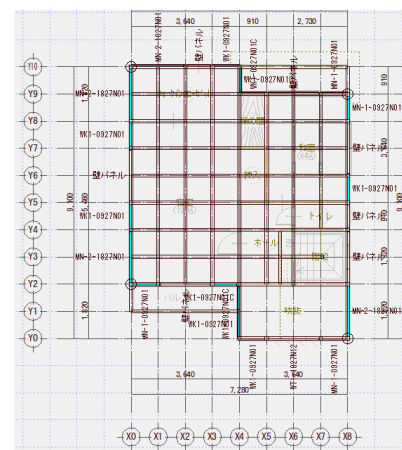


【パネル割付図】

6 [2階] 壁パネルの自動配置

2階壁パネルを自動配置する

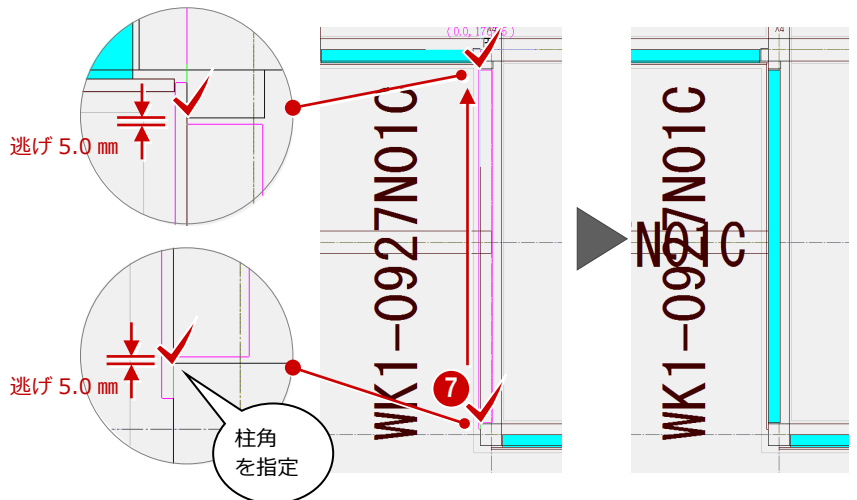
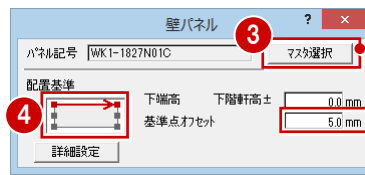
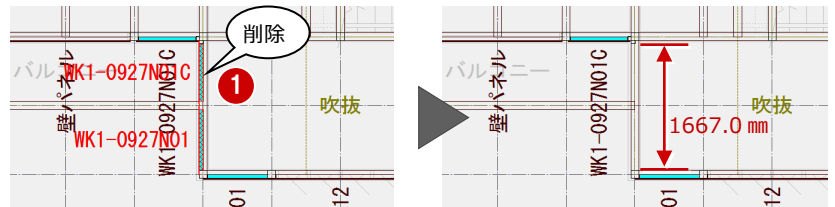
- 1 2階パネル割付図を開きます。
- 2 「自動」をクリックします。



壁パネルを入力する

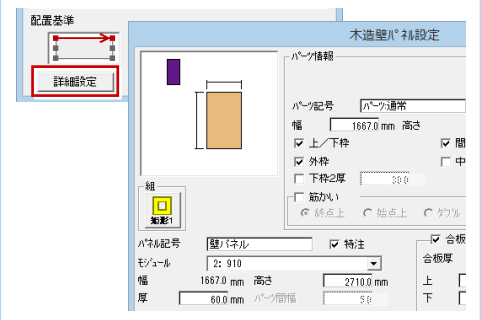
南側の入隅部分の壁パネルが2つ入力されていますが、柱がないため他の壁パネルに入力しなおします。

- 1 吹抜部分の壁パネルを削除します。
 - 2 [パネル] メニューから [壁パネル] の [壁パネル] を選びます。
 - 3 [マスタ選択] をクリックして、「WK1-1827N01C」を選びます。
 - 4 [配置基準] が「左面」、[基準点オフセット] が「5.0」であることを確認します。
 - 5 入力方法を「1点方向」に変更します。
 - 6 「ピック (交点)」を ON にします。
 - 7 柱角をクリックして、方向を指定します。
- ※ スペースキーを押して、ドラフタ機能を有効するとよいでしょう。



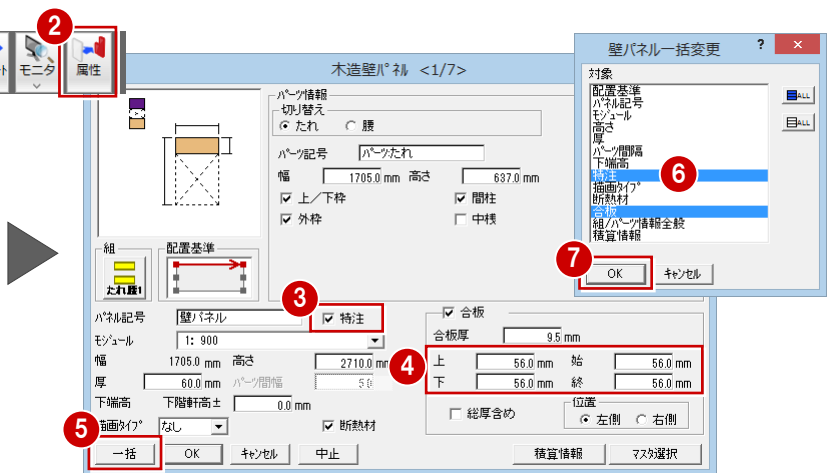
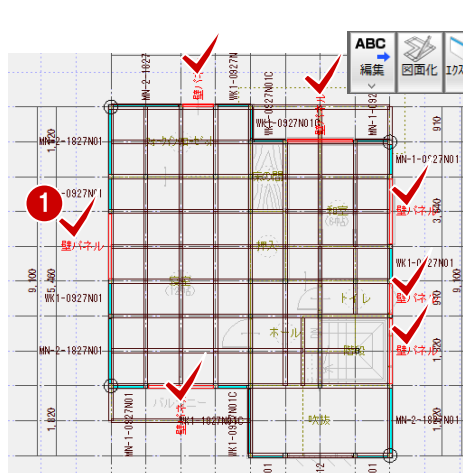
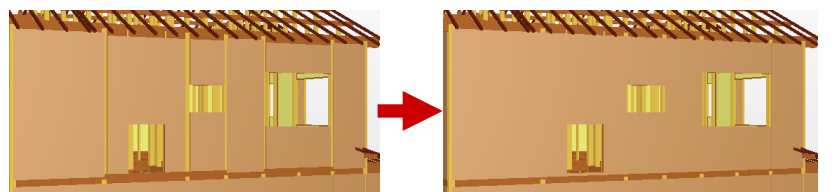
パネルの形状を任意に設定したい場合

パネルがマスタになく特注パネルとしたいときは、[詳細設定] をクリックして、幅、高さなどを設定し、[特注] を ON にします。



壁パネルの属性を変更する

P.12 と同様に、開口部の壁パネルに合板のオフセットを設定し、パネルマスタにない壁パネルであるため特注パネルとします。



7 [2階] 天井パネルの入力

天井パネルを入力する

1階小屋裏の天井パネルは、2階で入力します。

① [パネル] メニューから [天井パネル] の [天井パネル] を選びます。

② [マスタ選択] をクリックして、「C0918」をダブルクリックします。

③ ここでは、天井パネルを横架材間に落とし込んで配置するため、[上端高] が「0.0」、[基準点平行オフセット] [基準点垂直オフセット] を「57.5」であることを確認します。

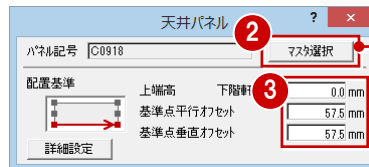
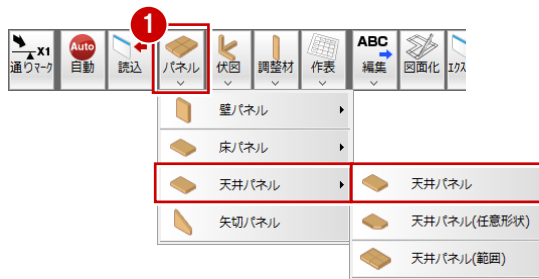
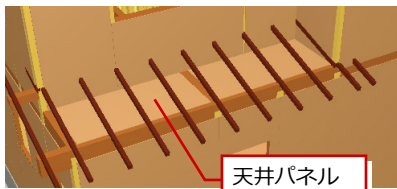
※ 梁幅/2+逃げ 5.0 mm = 57.5 mm

④ 入力方法を「1点方向」に変更します。

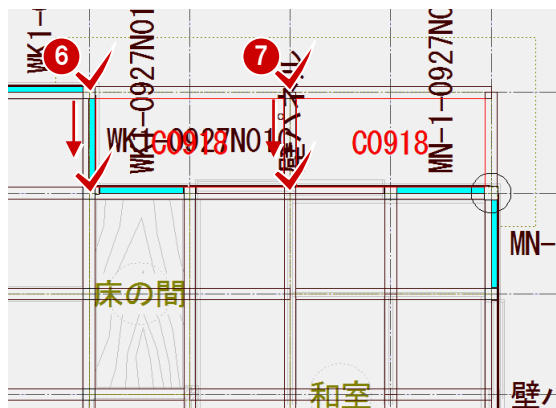
⑤ [グリッド] のみをONにします。

⑥ 配置基準点と方向を指定します。
(グリッドを指定)

⑦ 同様に、隣にも天井パネルを入力します。



パネル記号	上端高	基準点平行オフセット	基準点垂直オフセット
C0918S	0.0	57.5	57.5
C0918	0.0	57.5	57.5
C091	0.0	57.5	57.5



8 [R階] 天井パネルの入力

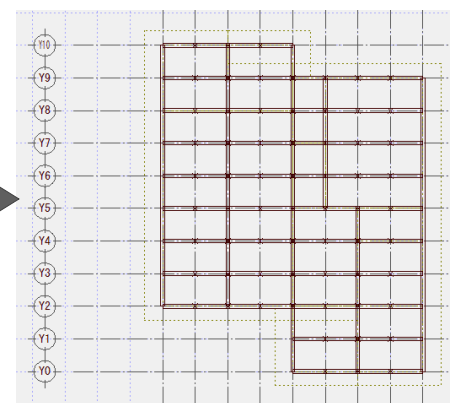
小屋伏図の部材を読み込む

小屋裏の天井パネルは、R階で入力します。まず、R階に小屋伏図の軒桁、小屋梁、妻梁、小屋束を読み込みます。

① R階パネル割付図を開きます。

② [自動] をクリックします。

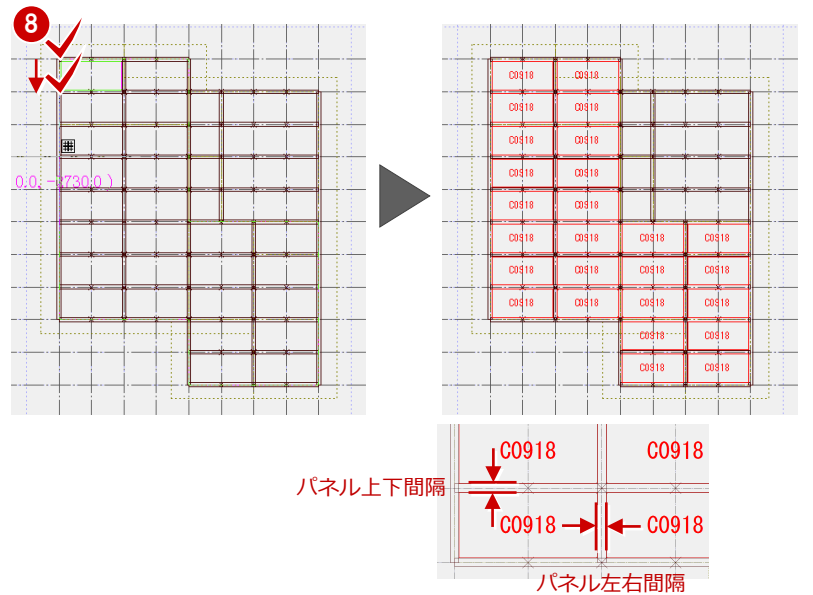
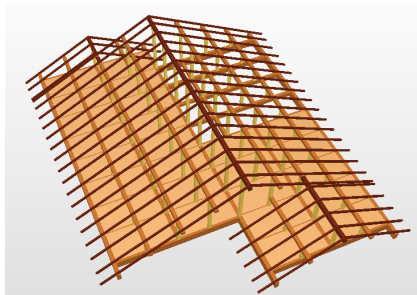
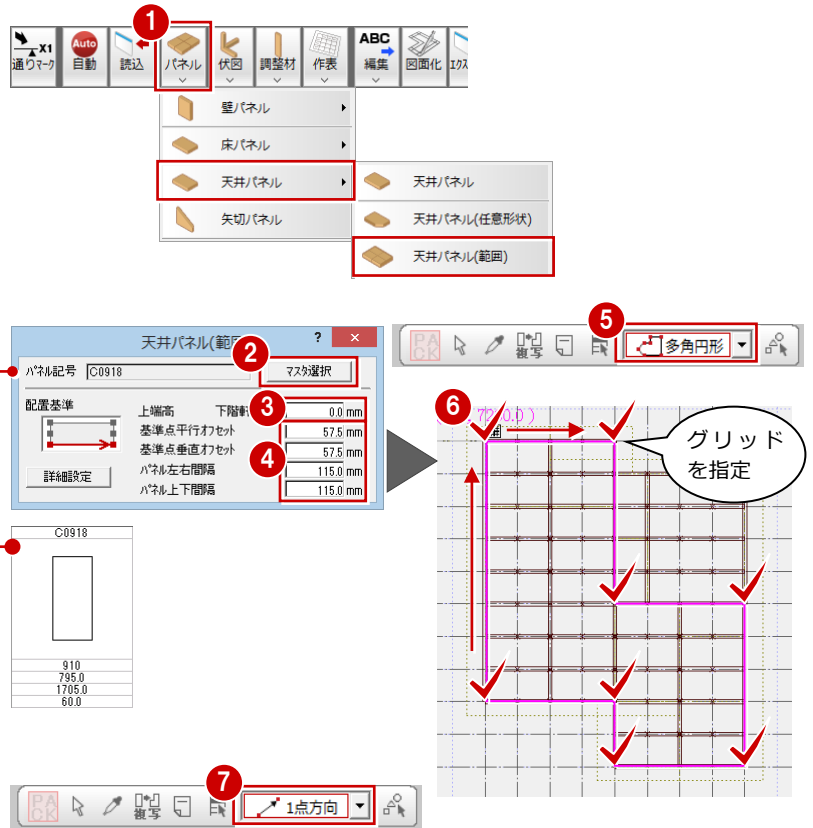
※ 本書では、矢切パネルは配置しません (⇒ P.10)。



範囲を指定して天井パネルを入力する

指定した範囲に同一方向に天井パネルをまとめて配置します。

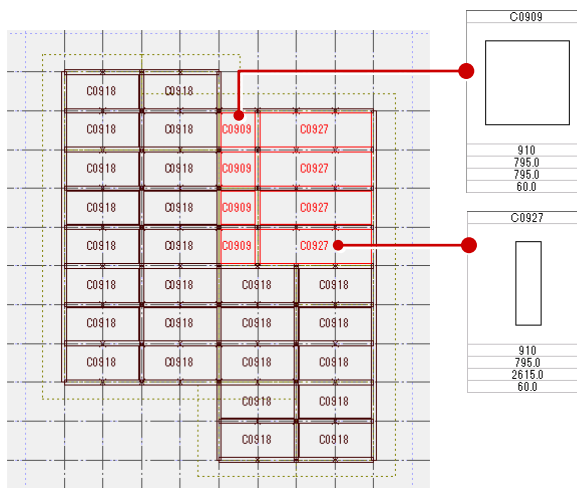
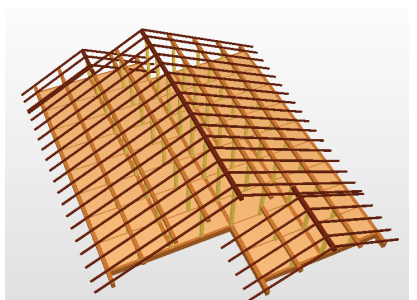
- 1 [パネル] メニューから [天井パネル] の [天井パネル (範囲)] を選びます。
 - 2 ダイアログの [マスタ選択] をクリックして、「C0918」を選びます。
 - 3 天井パネルを横架材間に落とし込んで配置するため、[上端高] が「0.0」であることを確認します。
 - 4 [基準点平行オフセット] [基準点垂直オフセット] が「57.5」、[パネル左右間隔] [パネル上下間隔] が「115.0」であることを確認します。
- ※ 梁幅/2+逃げ 5.0 mm = 57.5 mm
 ※ 梁幅 105 mm+逃げ 5.0 mm×2 = 115.0 mm
- 5 入力方法を「多角円形」に変更します。
 - 6 パネルを入力する範囲を指定します。
 - 7 入力方法を「1点方向」に変更します。
 - 8 配置基準点と方向をクリックします。指定した範囲にパネルがまとめて配置されます。



残りの天井パネルを入力する

右図のように、次の天井パネルを入力します。

- ・「C0909」(幅 795×奥行 795 mm)
- ・「C0927」(幅 795×奥行 2615 mm)



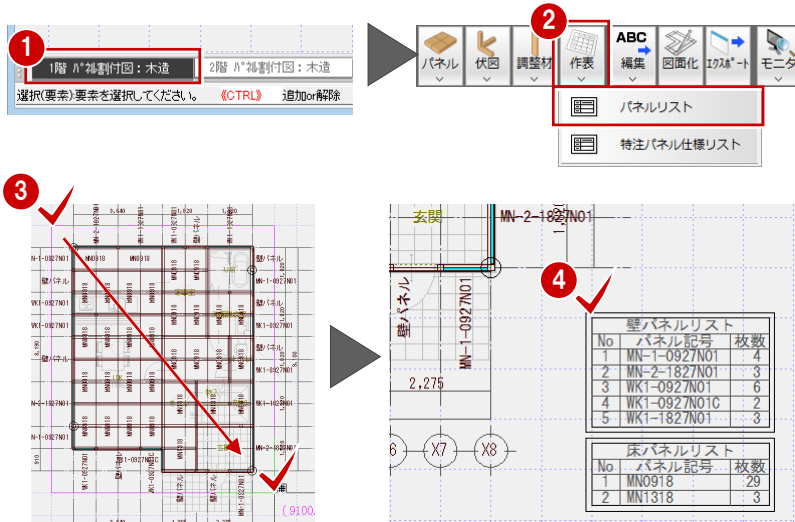
9

パネルリストの作成

各階のパネルリストを作成する

階ごとに、特注パネル以外のパネル枚数を集計します。

- 1 リストを配置する階を開きます。
 - 2 [作表] メニューから [パネルリスト] を選びます。
 - 3 パネルを含むように範囲を指定します。
 - 4 リストの配置位置をクリックします。
- ※ 階を変更して、同様に [作表] メニューの [パネルリスト] を選び、リストを作成します。

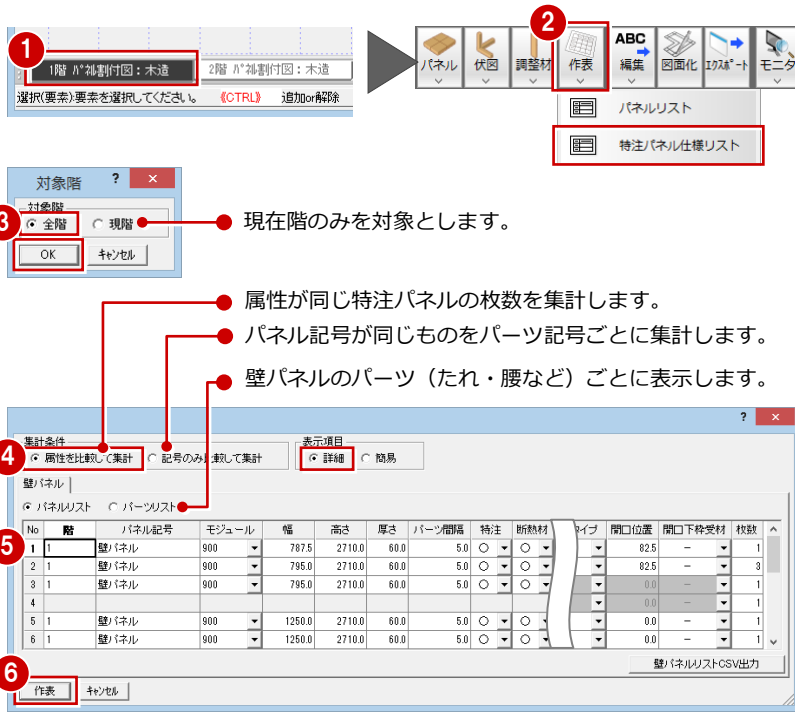


※ [特注] が ON のパネルは、リストには含まれません。

全階の特注パネルリストを作成する

全階の特注パネルのリストを作成しますが、階ごとに作成することもできます。

- 1 リストを配置する階を開きます。
 - 2 [作表] メニューから [特注パネル仕様リスト] を選びます。
 - 3 [対象階] ダイアログの [全階] を ON にして [OK] をクリックします。
 - 4 [属性を比較して集計] [詳細] が ON であることを確認します。
 - 5 壁の特注パネルを確認します。
- ※ 本書では、特注パネルは壁パネルしかありません。
- 6 [作表] をクリックします。
 - 7 リストの配置位置をクリックします。



リストを CSV ファイルに出力する

ダイアログの [壁パネルリスト CSV 出力] をクリックします。

CSV ファイルに出力される各値には、項目に応じた文字列が自動的にセットされます。

例) 「階」の値が「1」であれば「kai:1」

開口位置タイプ	開口位置	開口下枠受材	枚数
00 始点	825	-	1
00 始点	825	-	3
00 始点	0.0	-	1

壁パネルリスト CSV 出力

No	階	パネル記号	モジュール	幅	高さ
1	種別:0	kai:1	name:壁パ module:90 width:787. height:271		
2	種別:0	kai:1	name:壁パ module:90 width:795. height:271		
3	種別:0	kai:1	name:壁パ module:90 width:795. height:271		
4	種別:0	kai:1	name:壁パ module:90 width:125 height:271		
5	種別:0	kai:1	name:壁パ module:90 width:787. height:271		

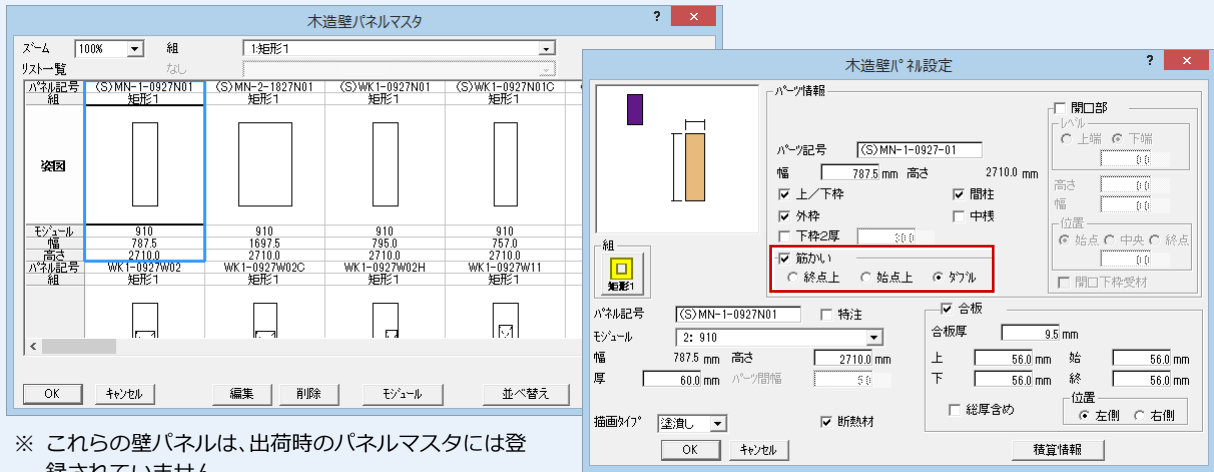
【表示項目：詳細の場合】

【表示項目：簡易の場合】

【補足】壁パネルに筋かいを設ける場合

壁パネルマスタに、筋かいを設定した壁パネルを登録する必要があります。

[木造壁パネル設定] ダイアログの [筋かい] を ON にして、筋かいのタイプを設定します。



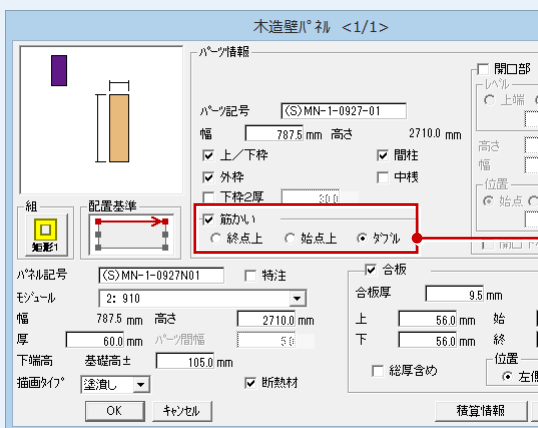
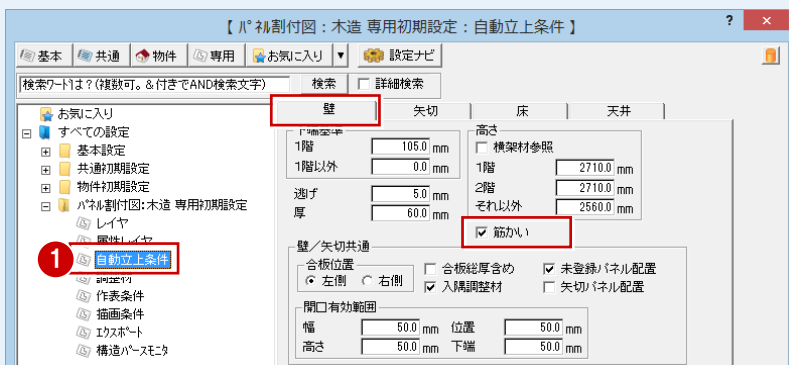
※ これらの壁パネルは、出荷時のパネルマスタには登録されていません。

次に、[専用初期設定 (自動立上条件)] の [壁] タブにある [筋かい] を ON にしてから、壁パネルを自動配置します。

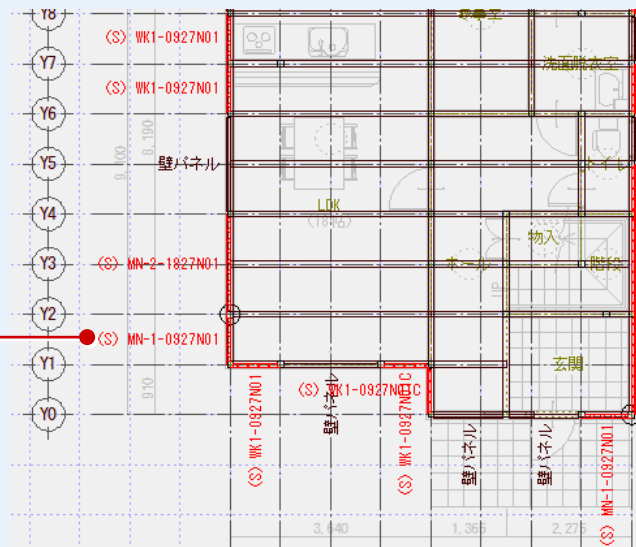
※ この場合、開口部がない壁パネル全てに筋かいが設定されます。筋かいがない壁パネルにしたいときは、自動配置後に属性変更でマスタを入れ替えてください。

※ 壁パネルの自動配置では、平面図、木造壁量計算および床小屋伏図の筋かいの位置、向きは参照しません。

※ 構造パースモニターにて、壁パネルの筋かいの立体は表現されません。



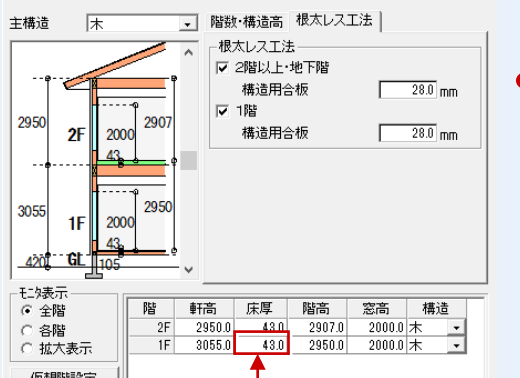
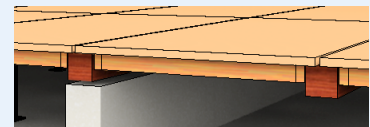
【壁パネルの属性変更ダイアログ】



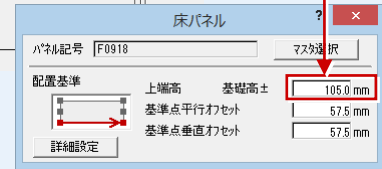
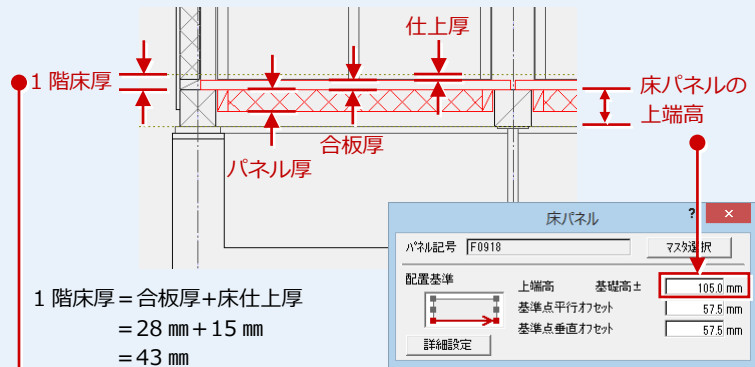
【補足】横架材間に床パネルを落とし込む場合

横架材間に床パネルを落とし込み、その上に構造用合板を張る場合、[物件初期設定 (基準高さ情報)] の[床厚]には「構造用合板厚+床仕上厚」をセットします。

※ 床パネルの落とし込みは、軒高には影響しません。



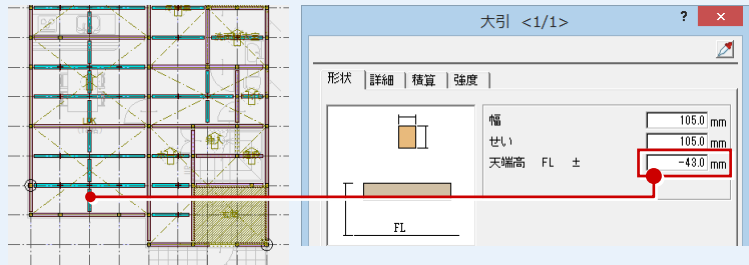
【物件初期設定 (基準高さ情報)】



- 床伏図 -

[床厚]により大引の天端が異なるため、床伏図にて大引の再配置または天端高の変更が必要になります。

また、床パネルのサイズにより大引の位置も検討してください。

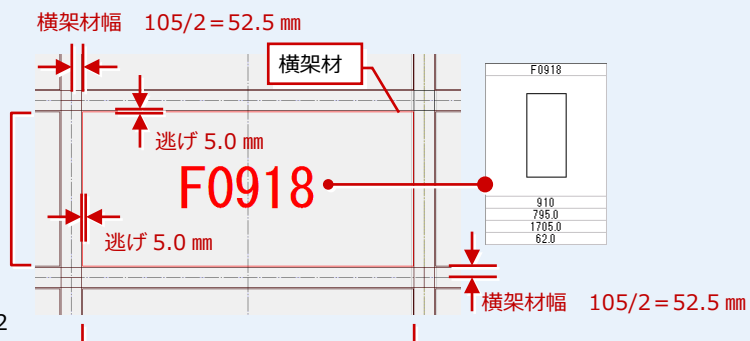


- 床パネルマスタ -

床パネルは、横架材間の距離、逃げから計算し、横架材間に収まるサイズを使用します。

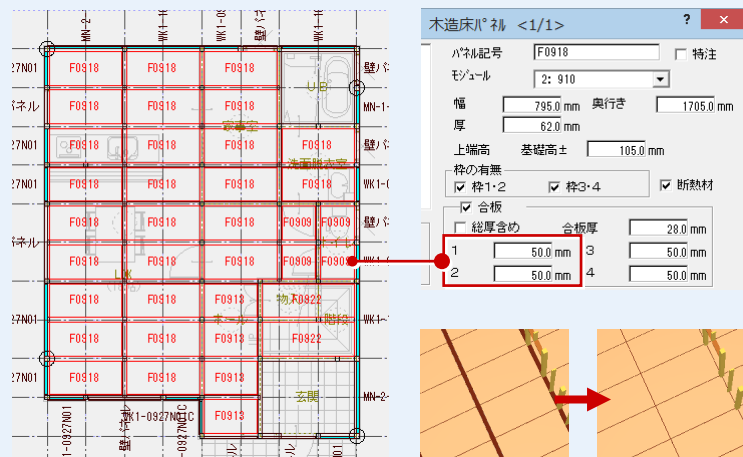
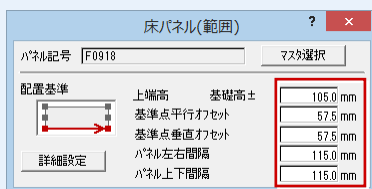
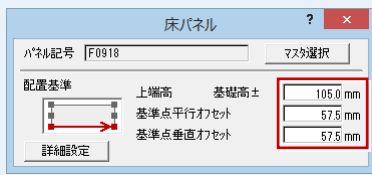
$$\begin{aligned} \text{床パネルの幅} &= \text{グリッド間} - \text{梁幅} - \text{逃げ} \times 2 \\ &= 910 \text{ mm} - 105 \text{ mm} - 5.0 \text{ mm} \times 2 \\ &= 795.0 \text{ mm} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{床パネルの奥行き} &= \text{グリッド間} - \text{梁幅} - \text{逃げ} \times 2 \\ &= 1820 \text{ mm} - 105 \text{ mm} - 5.0 \text{ mm} \times 2 \\ &= 1705.0 \text{ mm} \end{aligned}$$



- 1階パネル割付図 -

床パネルの入力では、横架材の幅とパネルの逃を考慮して基準点のオフセット、パネルの間隔を設定します。



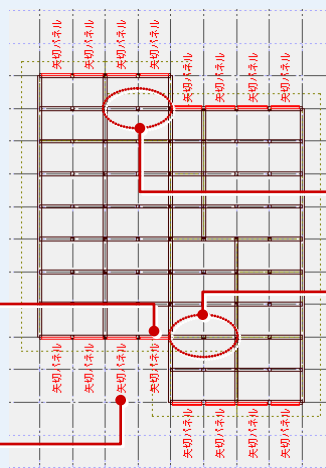
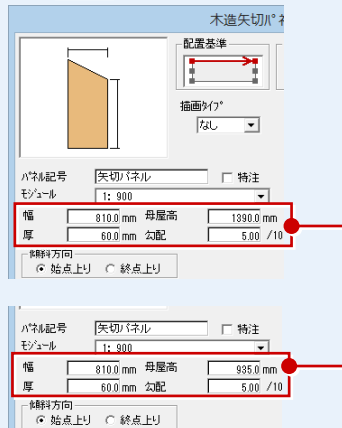
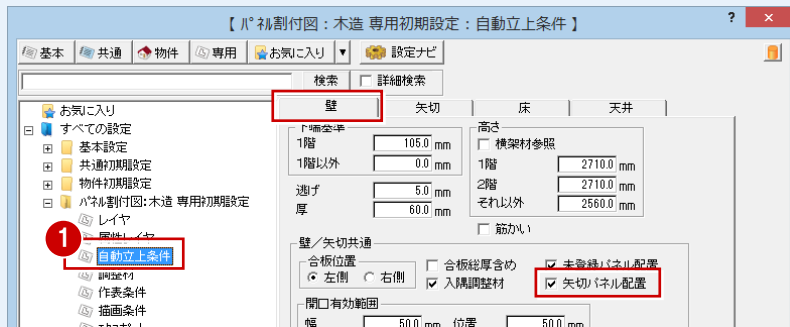
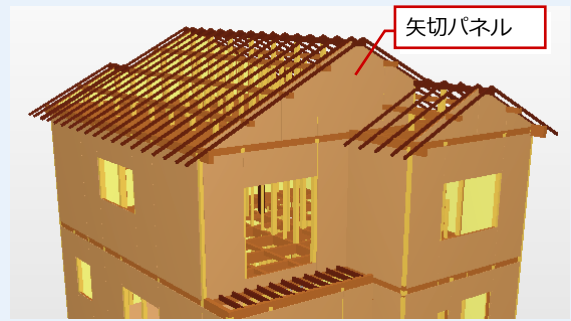
出荷時のマスタでは [1] [2] が「0.0」のため合板間に大きな隙間が生じます。入力後に合板のオフセットを確認してください。

【補足】屋根断熱の場合

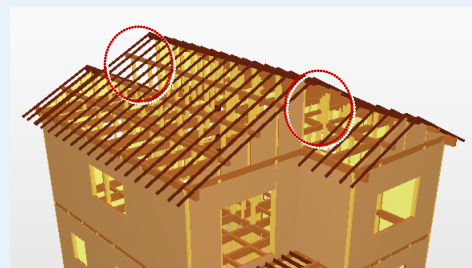
屋根断熱の場合は、小屋裏の天井パネルではなく、矢切パネルと屋根パネルによる断熱となります。

ただし、ZERO では屋根パネルには対応していないため、屋根パネルの領域、パネルリストは汎用コマンドを使って作成してください。

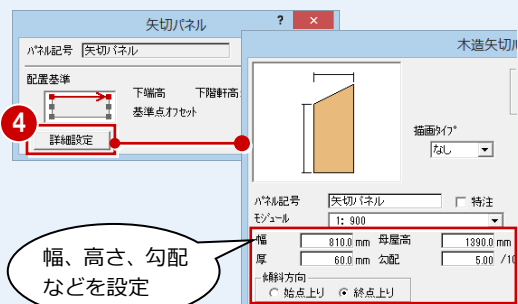
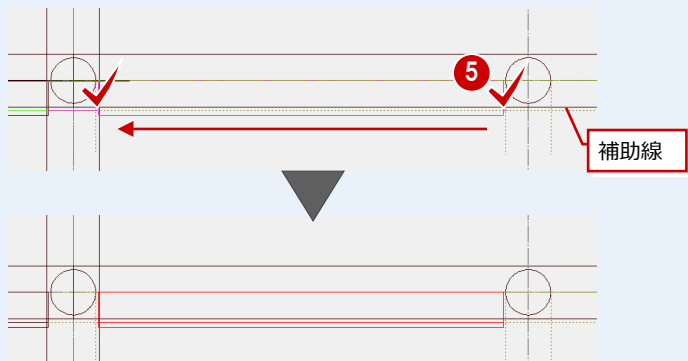
矢切パネルは、[専用初期設定 (自動立上条件)] の [壁] タブにある [矢切パネル配置] を ON にして、[自動] を実行します。



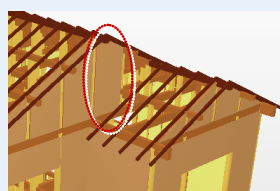
【R階パネル割付図】



矢切パネルは、屋根形状を参照して自動配置されますが、一部自動配置されない箇所もあります。この箇所には、矢切パネルを手入力します。



矢切パネルマスタを使用せず、任意にサイズを設定するときは、[詳細設定] をクリックします。



通し柱がある壁パネル・矢切パネルの配置位置は、通し柱の柱面が基準となります。このとき、矢切パネルの配置位置は管柱の角ではなく小屋束と通し柱が基準となるため、補助線を入力、または [DXDY] を使って矢切パネルの基準点を指定してください。